

いわき市長からのお願い

1. 本日（3月19日）の状況

・発災してから一週間が経ちます。浜通りは、過去に類を見ない巨大地震、大津波被害に加えて、原発事故の三大災害に見舞われております。

また、この災害により燃料や食料品、日用品などが枯渇している現状です。これらの要因として、屋外退避の30km圏内が、市内のごく一部でありながら、市内全域を退避エリアと誤解し、物流車が市内に入っていない状況となっております。

・市内の沿岸部では、大津波により避難生活を強いられておりますが、いわき市のほとんどは30kmエリア外であり、原発の影響はほとんど無いことを理解していただきまして、物流を正常化していただきますよう、切にお願い申し上げます。

2. 今ほしいもの

・いわき市は広大な面積の中で34万人の人たちが暮らしています。そのために移動手段として、車が欠かせないものとなっております。日常生活を行う上でガソリンの確保は必然です。一刻の猶予もありません。ガソリンを運んできて下さい。

・また、介護用品(紙おむつ)、赤ちゃん用必需品(紙おむつ、粉ミルク、離乳食)、生理用品も不足しています。

・食料品も不足しています。レトルト食品、缶詰、カップ麺、インスタント食品等保存の出来る食料品をお願い致します。

気仙沼市長からのメッセージ

気仙沼市では、8月11日の発災から、現在把握しているだけで、死者数416人を数える甚大な人的被害と建物や道路の損壊などの物的被害を受けました。

また、電気・水道・通信等、ライフラインが途絶え、市民のみなさんは家族との連絡が困難な状況となっております。

災害対策に携わる我々行政機関も被害を受け、関係機関や避難所等との連絡が思うようにならない状況にあり、全市民が避難者といっても良いほどの甚大な被害を受けており、さらに、燃油の調達が非常に困難で、寒さをしのぐことや、重機の稼働、物資の運搬等に大変苦心しております。

ありがたいことに本市には、自衛隊をはじめ、県外からの警察、消防、自治体、ボランティアのみなさんなど、全国から温かい支援をいただいております。

今、ライフラインの復旧が進み始めているものの、復興にはまだまだ多くの時間を要するものと思います。

全国の皆様には、どうか引き続き温かい御支援をいただきますよう、市民を代表し、心からお願いを申し上げます。

必要物資名	単位	数量	規格	備考
水	ℓ	1000	2ℓペットボトルで	
レトルトご飯	個	200	1食分毎	
乾電池 (単1・2・3)	箱	各500		
消毒液	本	2,000		
マスク	枚	20,000		
パン	食	10,000		
紙食器	枚	10,000		
紙コップ	個	10,000		

必要物資名	単位	数量	規格	備考
水	ℓ	1000	2ℓペットボトルで	
レトルトご飯	個	200	1食分毎	
乾電池 (単1・2・3)	箱	各500		
消毒液	本	2,000		
マスク	枚	20,000		
パン	食	10,000		
紙食器	枚	10,000		
紙コップ	個	10,000		

大船渡市からのメッセージ

数々の心あたたまるご支援に感謝申し上げます。
さて、岩手県は四国4県に匹敵する面積があるにもかかわらず、
当市をはじめ、地方都市には公共交通が極めて少なく、日常的
に自家用車での移動がほとんどとなっています。
さらに、このたびの震災で公共交通が壊滅し、移動手段が自家
用車以外になくなりました。
ところが、ガソリン不足により、災害復旧車両や緊急車両の給油
を優先するため、一般車両に供給することが困難になり親族の
安否を確認したり、医療スタッフが通勤するための車両にも給油
できない状況になっています。
なんとか、市民の唯一の移動手段を確保するために、一般車両
に給油できるガソリンや、作業用重機の軽油を確保したいと考
えていますので、よろしくお願ひします。
早く復興できるようがんばります。

必要物資名	単位	数量	規格	備考
(例)レトルトご飯	個	1,000		
米(10kg)	袋	1,000		
バナナ	本	5,000		
魚の味付け缶詰	個	2,000		
ソーセージ	本	3,000		
カップスープ	個	6,000		
菓子パン	個	6,000		
子供用菓子	個	適宜		
ガソリン	キロリットル	100		
軽油	キロリットル	100		

白河市長からお願い

1. 近況

- ・本市では、地震による土砂崩れで14名の方が行方不明となりました。その後の捜索により、残念ながら13名の方が遺体で発見され、現在も1名の方が発見に至っておりません。
- ・また、家屋の倒壊等により避難所に避難されている方は、約500名になります。
- ・地震発生時には市内のいたるところが断水し、水の確保に苦劳しましたが、現在はおおむね80%程度復旧し、水に対する不安が解消しつつあります。
- ・一方、燃料、特にガソリン・軽油が逼迫し、復旧や支援活動に支障をきたしている状況にあります。
- ・さらに、白河産の農産物が引き取りを拒否されるなど、原子力発電にかかわる風評被害に頭を悩ませています。多くのボランティアの参加もいただき、市民一丸となって今回の危機を乗り越えるべく活動を行っています。

2. 今ほしいもの

- ・県内外の自治体・企業から、また被災された市民からも多くの救援物資が寄せられ、当面の必要品は充足しつつあります。
- ・一方、燃料、特にガソリン・軽油が逼迫し、切実な状況に陥っています。

石巻市長から国交省へのメッセージ

このたびの東北関東大震災では、宮城県石巻市は震度6弱という強震と、高さ10m以上という大津波により甚大な被害を受けました。

市では震災後すぐに災対本部を設けましたが、津波によって本部である庁舎が浸水し、さらに電話や携帯による通信手段も途切れるという事態となり、各支庁との連絡ができず、まさに八方塞がりとなった時に、当市に事務所を置く東北地方整備局北上川下流河川事務所の御支援御協力により、衛星通信電話の設置やボートの貸与そして市街地の浸水対策として排水ポンプ車による排水活動は、死の淵にあった石巻市を生へと導く第一歩ともいうべきものであり、感謝の言葉もありません。

災害発生から1週間以上が過ぎようとしていますが、約四万人の市民が避難し、寒さが続く昨今にあっては、いろいろな不足が目立つところではありますが、全国そして世界の多くの方々から心温まる支援物資が届けられており、また国から物心両面にわたる御支援もあり、解消へと向かうのではと考えております。

しかし現在、最も心配なことは、多くの市民が壊滅的な被害を目の当たりにし、復興そして明日への希望を失いつつあることです。

死者そして行方不明者は日を追って増え続け、また家屋を失った世帯が1万5千世帯以上もある中で、明日への希望や夢はなかなか見出すことは厳しい現状ではありますが、少しずつでも復興に向けて進まなければなりません。

復興のためには、マイナスからゼロそしてゼロからプラスへと向かっていく施策や整備が必要であり、その大きな一つとして新たな街づくりなどの基盤整備であると考えております。

市内は上下水道や電気、電話、ガスなどのライフラインの停止や、橋や道路、港湾などのネットワーク機能が寸断され、また海岸や河川施設の破壊など、長年にわたり整備した多くを今回の災害で失いました。

特に、沿岸部の住宅や公共施設は壊滅的な被害を受け、新たな街づくりという視点からの災害復旧が必要であり、物的人的な支援が必要です。

そして、地震津波の驚異的な破壊力により失われた、国道398号新北上川大橋そして北上川河口部左右岸の堤防は、早期の復旧が必要であり、特に河口部は津波によって多くの人が未だ行方不明となっている地域だけに早期の復旧整備が無ければ不明者の捜索もままならないものであります。

さらに、地震によって石巻は約67cmも地盤が沈下し、なんでもない潮位なのに浸水し道路冠水や家屋への浸水が発生しているという声も聞いており、海岸・河川施設が破壊されている中で大きな課題になりつつあります。

約四万人の避難者への対応、ライフラインの復旧、交通ネットワークの確保、破壊された河川海岸施設及び港湾施設の復旧など、取り組まなければならないものがあまりにも多くありますが、是非、市民への明日への光として、迅速な復旧整備を進めていただきたくお願いいたします。

必要物資名	単位	数量	規格	備考
白米	kg	30,000		
非常用 アル米(100g)	個	100,000	ビニール) 200g	
カゴめし	個	100,000		
ガソリン				
カセット工口	個	15,000		
缶詰	個	200,000		
乾電池	単、単3 個	各10,000		
常備薬	一式	230		
下着:くつ下(新品)		10,000		

釜石市長からのお願い

1 本日(3月20日)の状況

震災後一週間が経ちました。市内では幹線道路が通行可能となり、電気、電話などのインフラも徐々にではありますが、改善しつつあります。

これまで最悪の状況にあっても懸命に献身的にご協力・ご支援いただきました消防団、町内会など地域住民の皆様方には心から感謝申し上げます。

現在、当市には世界各国からの救援隊、自衛隊・警察・消防など多くの関係機関の皆様が釜石入りされ現場で救援活動に当たっております。

本日までにご遺体で発見されたご遺族の皆様には心からお悔やみ申し上げますとともに、行方不明となっておりますご家族の皆様には無事再会されるよう、引き続き発見・捜索に全力を尽くす所存であります。

2 今ほしいもの

現在、当市では避難所に避難している方々のために、次の用品を必要としています。

灯油、カセットボンベ、米、トイレットペーパー、子供用紙おむつ、大人用紙おむつ、生理用品、乾電池、ストーブ(反射式)、炭、長靴、靴下、下着、手指消毒液、タオル、ローソク、歯ブラシ、歯磨き、洗剤、ラップ、そのほか日用品

南三陸町長の声

被災した町に対して全国各地から多大なご支援をいただき、感謝申し上げます。

避難所生活を送っている方々も元気で過ごしているので、今後もよろしく申し上げます。

宮古市長から

1. 本日（3月20日）の状況

- ・ 発災してから10日目となります。

現在、救助活動、ライフライン復旧作業、支援活動などに励んでいるところであり、水道は約8割が復旧し、電気も徐々に復旧しはじめています。しかしながら、燃料も不足している状況にあり、避難所65箇所にいる避難住民約8,000人が不便な生活を送っている状況です。

2. 今ほしいもの

- ・ 仮設住宅の早期建設
- ・ 燃料の供給（ガソリン等）
- ・ NTT回線の早期回復

名取市長からのお願い

1. 本日（3月20日）の状況

被災当初は12,000人近くの方が避難所生活をしていましたが、ライフラインの復旧により、現在は19か所に2,700人となった。家族が目の前で流され、肉体的にも精神的にも限界に達している被災者は、ボランティアの支援を受けながら避難所生活をしている。行方不明者の捜索は、自衛隊、消防、緊急援助隊、警察、地元建設業者の連携で、連日行われており、ご遺体が500体（3・20現在）となっている。市民生活は、物流が復活しておらずすべての生活物資が不足し、治安の悪化も顕著で、被災した空き家や事務所、資材置き場から盗難事件が多くなっており、一部の地域では自警団が発足している状況で、警察の対応が間に合わず、安心して暮らせる状況ではない。

2. 今ほしいもの

簡潔に2点をお願いしたい。

その1

何をおいても燃料の確保。捜索や被災地の整備に必要な重機類、物流を確保するため、ガソリン等の燃料の安定供給が必須と考える。

その2

また、政府としての災害復旧に関する方針を迅速かつ明確に示していただき、県と連携し現場が動きやすい体制を早急に整備することが肝要と考える。

中でも、仮設住宅の配分計画を早急に示し、名取市としての取り組みを早急に始めたい。

陸前高田市長からのメッセージ

今回の災害に際し、被災者の支援用として下記のとおり車両が是非とも必要となっておりますので、何卒格段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

車種	数量	用途
マイクロバス	1	避難者の移動用
普通ワゴン車	10	避難者の移動用
軽乗用車	1	避難者の移動用
普通トラック(低床)	1	救援物資の輸送
普通バン	2	救援物資の輸送
軽ワゴン車	5	救援物資の輸送
軽トラック	5	救援物資の輸送
軽ダンプ	1	救援物資の輸送
軽SUV	3	救援物資の輸送
普通SUV	1	救援物資の輸送
給水車(1トン アルミ製)	1	水の供給
計	30	

相馬市長からのお願い

3月20日の状況

災害発生以来全国の卸売販売、復興支援活動が
 進められて。地道に、特に相馬市と関係の困難に
 直面している。国交直にはお世帯の対応が。現在
 の課題は、この不備の原発事故による国産被害。こ
 のため福島県内全体の放射能汚染地域の印象
 を持った。物流の困難と物資の不足が最大の
 問題。相馬市は国に避難命令が出た際、ここで
 踏ん張る決心。物流業者の理解と、販売業者の
 卸売販売の対応。この距離は45kmの距離です。

今ほしいもの

食料物資。1-2-3. ハム. 玉子. 卵. 缶詰. 缶詰. 缶詰. 缶詰
 梅干し. 米は集まりにくい。副食に調理済の
 生活用品。10-10-10. 10-10-10. 10-10-10. 10-10-10
 用品. 木口紙など
 仮設住宅建設に。1-2-3 冷蔵庫 (中古 5年以内 100x60cm)
 中古電器 (15:10:10. 5年以内の中古に限り) 中古の掃除機
 (中古5年以内). ラジオ (中古 4000円以下) など

福島県いわき市における店舗等の状況

(3月21日)

- 大手スーパーは、市内数十店舗のうち数店舗開業。
- コンビニは、営業している店舗もあるが、休業中が大多数。
- ホームセンターは、市内十数店舗のうち5店舗開業。
- 大手ドラッグストアと大型衣料品店は、全店舗休業。
- 金融機関10社も、全店舗休業（ただし、一部支店でATM稼働）
- ガソリンスタンドは、約130店舗のうち、30～40店舗開業。
- 医療機関は、市立病院は通常どおり。

宮古市長から

1. 本日（3月21日）の状況

宮古市では、大津波により多くの尊い命が犠牲になりました。現在確認された死者の数は294人となり、今後更に増加することが予想されます。

また、大津波により建物の流失・倒壊、道路や電気・水道・通信などのライフラインが切断されたため、市内69箇所に設置された避難所には5,917人が避難しています。

市民生活では、食料や灯油・ガソリンなどの燃料の調達が非常に困難な状況となっています。

現在、自衛隊や国・県など関係機関の協力を得ながら行方不明者の捜索、ライフラインの復旧を進めています。

2. 今ほしいもの

県内外の自治体、企業、個人から多くの支援をいただき感謝申し上げます。現在、避難所では次の用品が不足しています。

- ・衣類（下着）
- ・トイレットペーパー
- ・缶詰
- ・石けん、洗剤
- ・大人用オムツ、尿取りパット

女川町からの情報発信

○女川町で今対応して欲しいものはガソリンが不足しています。

貯蔵する施設は 1 箇所のみ残っていますが十分な補給のためには外部からの補給が必要です。

現在、石巻市などの施設も稼働していない状況ですので、一刻も早い周辺地域での供給開始を御願います。

○また、紙皿、紙コップ、わりばしが不足しています。

以上

大槌町から情報発信

全国の皆さん、大槌町副町長の東梅政昭です。この掲示板にて被災地大槌町から生の声を発信し、今の状況、今すぐ欲しいものは何かを伝えたいと思います。

今回の大地震において津波で役場が壊滅し、町長をはじめ職員 32 名が犠牲になり現在 104 名で震災対応を実施しています。震災から一週間が過ぎ町民の疲れもピークに達している現状です。

一日でも早いライフラインの復旧、仮設住宅の建設により町民の皆さんが生活できるよう頑張っているところです。

本日の状況は、自衛隊をはじめ関係機関の元、人命救助、捜索、給食・給水等各種支援、通行道路の確保、ライフラインの復旧に向けた作業を実施しています。

物資等に関しては各地から支援物資が届き非常に感謝しております。ただ、何も持たず身一つで避難したため未だ不便な状態が続いています。

特に学校に通っている子供たちは、津波で学用品全て流され、学用品が何もない状態です。

下記に今すぐ必要なものと、大槌町の現状を伝え、本日の被災地大槌町からの「生の声」とします。

【今すぐ必要なもの（欲しいもの）】

1. 下着（男・女）

2. 学用品

- ・ランドセル（110個）
- ・ジャージ（小学生用：120～160cm、小学生以外：S・M・L・LL）
- ・クレヨン
- ・色鉛筆（12色）又はクーピーペンシル
- ・ハサミ
- ・ノリ
- ・筆箱（鉛筆、消しゴム）
- ・下敷き
- ・ノート（横野 B5）
- ・ノート（10mm方眼のマス目入りノート B5）
- ・中ズック（18～24cm、24～27cm）

福島県相馬市の現状（3/21 現在）

① 建設業者（※）は、約 20 社のほぼ全てが活動し、復旧作業や行方不明者捜索に協力している。

（※ 市内に本社がある会社）

② 開業している病院は、23 病院のうち、3 割程度だが、全国から応援に来た医者・看護師と共に、避難所の往診等も含めて努力している。医薬品は、調達できている模様。

③ 特別養護老人ホームや老人保健施設は、3 施設とも開業している。

④ 薬局は、大手薬局 3 店舗は営業していないが、個人薬局が一部営業している。

⑤ 金融機関は、8 機関のうち、2 機関しか窓口業務を行っていない。

⑥ ガソリンスタンドは、12 社のうち、6 社が営業しているが、ガソリン等が圧倒的に足りておらず、一般販売があるときは、前日の夜から長蛇の列となっている。

⑦ コンビニは、20 店舗の全てが営業していない。

⑧ スーパーマーケットは、11 店舗のうち、2 店舗しか営業していない。

⑨ 官公庁は、開庁している様子。

山田町からのメッセージ

本町では、全世帯の約53%が被災し、現在、31カ所の避難所に4,141人が避難して不自由な生活を強いられています。

全国からの支援物資が、徐々に届けられてきました。大変感謝しております。

なお、食料が充分とはいえません状況ですので引き続きご支援をお願いします。

未曾有の大災害により基幹産業である漁業が危機に瀕しています。

全国からの支援を期待しながら、復興のために町民一丸となつてがんばります。

山田町の臨時掲示板

必要物資名	単位	数量	規格	備考
下着(上)大人 男用	枚	4,000		
下着(下)大人 男用	枚	4,000		
下着(上)大人 女用	枚	4,000		
下着(下)大人 女用	枚	4,000		
女性用生理用パンツ	枚	1,000		
靴下 大人用	足	8,000		
靴下 子供用	足	1,000		
単一乾電池	本	1,000		
ガソリン用ケイコウ缶	缶	100		
カップラーメン	箱	1000		

釜石市長からのお願い

1. 本日(3月22日)の状況

震災後10日あまりが経ちました。市内では幹線道路が通行可能となり、電気、電話などのインフラも徐々にではありますが、改善しつつあります。

これまで最悪の状況にあっても懸命に献身的にご協力・ご支援いただきました消防団、町内会など地域住民の皆様方には心から感謝申し上げます。

現在、当市には世界各国からの救援隊、自衛隊、全国各地の警察・消防など多くの関係機関の皆様が釜石入りされ現場で救援活動に当たっていただいております。

本日までにご遺体で発見されたご遺族の皆様には心からお悔やみ申し上げますとともに、行方不明となっておりますご家族の皆様には無事再会されるよう、引き続き発見・捜索に全力を尽くす所存であります。

2. 今ほしいもの

現在、当市では避難所に避難している方々のために、次の用品を必要としています。

灯油、カセットボンベ、米、トイレトーパー、子供用紙おむつ、大人用紙おむつ、生理用品、乾電池、炭、長靴、靴下、下着、手指消毒液、タオル、ローソク、歯ブラシ、歯磨き、洗剤、ラップ、そのほか日用品

南三陸町長からお願い

1. 本日（3月22日）の状況

本日の南三陸町は曇り空の寒い一日ですが、避難民の皆さんは全国の皆様のご支援のおかげで、元気に避難所生活を送っております。

今回の大津波で南三陸町は壊滅的な打撃を受けました。被災前の町の世帯数は5,574世帯でした。今回の津波で3,900戸あまりが被災し、多くの町民の皆さんが家を失ってしまいました。また、町民の半分以上の9,700人が避難所生活を余儀なくされています。

これから、町の復興に向けて長い長い道のりが始まります。全国の皆さんの暖かいご支援を引き続きお願いいたします。

2. 今ほしいもの

今日現在では下記の商品が不足しています。

〔食料品〕

- ・ 調味料

〔日用品〕

- ・ トイレ用の洗剤等（バケツ、ブラシ）

宮古市長から

1. 本日（3月22日）の状況

宮古市では、大津波により多くの尊い命が犠牲になりました。現在確認された死者の数は307人となり、今後更に増加することが予想されます。

また、大津波により建物の流失・倒壊、道路や電気・水道・通信などのライフラインが切断されたため、市内69箇所に設置された避難所には6,153人が避難しています。

市民生活では、食料や灯油・ガソリンなどの燃料の調達が非常に困難な状況となっています。

現在、自衛隊や国・県など関係機関の協力を得ながら行方不明者の搜索、ライフラインの復旧を進めています。

2. 今ほしいもの

県内外の自治体、企業、個人から多くの支援をいただき感謝申し上げます。現在、避難所では次の用品が不足しています。

- ・衣類（下着）
- ・トイレットペーパー
- ・缶詰
- ・石けん、洗剤
- ・大人用オムツ、尿取りパット

◆女川町からのメッセージ

女川町では3,202人が避難しています。在宅で避難している人もいるため一日5,000食の食料が不足しています。また、その他物資も不足しています。そこで下記の食料及び物資を何とかして欲しい。

<食料>

5,000食分

- 食用油
- 味噌
- 塩
- 砂糖
- だし

<その他物資>

- 大きめのゴミ袋 5,000袋
- 避難場所の仕切り用 段ボール 3,000個

大槌町副町長の声

災害発生から、12日目を迎え避難所では食べ物や日用品などが届くようになり、少し落ち着きを取り戻しています。

そうした中で、現在、町民が一番困っていることは、町にガソリンが無いことです。

宮古市では、一人10リットルの制限があると聞きましたが、大槌町では、10km以上離れたガソリンスタンドで一人5リットル入手するのがやっとの状況です。

このため、役場には「ガソリンをなんとか確保してほしい。」という声が多く寄せられており、1リットルでも多くのガソリンを回してほしいというのが、町民の願いです。

なお、大槌町にあるガソリンスタンドは、全滅のため、大槌町に近い釜石市のスタンドに早くガソリンを補給してほしい。

山田町からの情報発信

○ 必要物資

①透明パック ※屋台でよく焼きそばを入れるもの

②輪ゴム

③紙コップ

④割りばし

⑤レトルト食品

⑥カップ型の味噌汁

①～⑥を各126,000個

※ 6,000人×3回×7日間

⑦トレー（おぼん） 20個

※アルミ製など一度におにぎりを50個のせられるもの。

⑧お皿 1,500皿

※ 主菜・副菜・ご飯をのせる3分割
されているもの。

⑨お風呂まわり用品

シャンプー・リンス

石けん・ボディークリーム

スポンジタオル

T字ひげそり（使い捨てのもの）

洗顔料（ビオレなどを）

⑨については適量

東松島市長から

本日の状況

東松島市では、大津波により多くの尊い命が犠牲になりました。現在確認された死者の数は679人となり、今後更に増加されることが予想されます。

また、建物の流失・倒壊、海岸線から5km～6kmに及ぶエリアの床上・床下浸水、ライフラインの切断により、12,419人の避難者が88箇所に避難しており、市民生活では、食料・灯油・ガソリンなどの燃料の調達が非常に困難な状況となっています。

ライフラインの回復とともに、帰宅される避難者も徐々に増えつつあります。

そのような避難者の多くは、床上、床下まで浸水した方々であり、汚泥除去の作業が次の段階として、必要であります。

平成23年3月23日

いわき市長からのお願い

3月20日にいわき市平体育館において開かれた講演会において、長崎大学医学教授であり、放射能影響等の権威である山下俊一先生が「現在のいわき市における放射能測定値は、依然として健康に影響を与えない極めて低い数値で推移しており、事故直後の最も高い数値でも安全であり、現在のレベルでは、まったく安全で、外出も大丈夫です。雨の日に外出し、濡れたとしても健康に影響を与えません。」と明確に見解を発表されました。

国民の皆様、いわき市のほとんどは30kmエリア外であり、原発の影響のほとんど無いことを理解していただきまして、物流を正常化していただきますよう、切にお願い申し上げます。

宮古市長から

1. 本日（3月23日）の状況

宮古市では、大津波により多くの尊い命が犠牲になりました。現在確認された死者の数は319人となり、今後更に増加することが予想されます。

また、大津波により建物の流失・倒壊、道路や電気・水道・通信などのライフラインが切断されたため、市内69箇所に設置された避難所には5,812人が避難しています。

市民生活では、食料や灯油・ガソリンなどの燃料の調達が非常に困難な状況となっています。

現在、自衛隊や国・県など関係機関の協力を得ながら行方不明者の捜索、ライフラインの復旧を進めています。

2. 今ほしいもの

県内外の自治体、企業、個人から多くの支援をいただき感謝申し上げます。現在、避難所では次の用品が不足しています。

- ・衣類（下着）
- ・トイレットペーパー
- ・缶詰
- ・石けん、洗剤
- ・大人用オムツ、尿取りパット

◆女川町からのメッセージ

・洗濯用の洗剤(粉)

10箱

※1箱6-10個入りのもの

亘理町から

3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」では、亘理町においても、被害が甚大であり、かつ復旧には長期化、深刻化することから、村井宮城県知事あてに本日午後に緊急要望書を提出しました。

宮城県知事
村井嘉浩殿

東日本大震災についての 緊急要望書

平成23年3月23日

亘理町長 齋藤邦男
亘理町議会議長 岩佐信一

3月11日に宮城県を襲った「東日本大震災」は、国内最大のマグニチュード9.0を記録し、大地震と津波による被災で、死傷者や行方不明者が多数でている。

本町においても、被害は甚大であり、復旧には長期化、深刻化することが憂慮されている。

つきましては、下記の事項を早急に取り組むよう強く要望する。

記

- 1 自衛隊の長期駐屯
- 2 被災者への支援並びに仮設住宅の早期着工
- 3 県所有地(亘理町内)の無償貸付
- 4 県道の災害復旧及び改修
- 5 荒浜漁港の災害復旧
- 6 国の「建設海岸」「漁港海岸」「農地海岸」の災害復旧
- 7 早期復興の為の国並びに県の特別な財政支援
- 8 一次産業への支援並びに農業水産施設の早期復旧(排水施設等)
- 9 JR 常磐線の早期復旧
- 10 被災による雇用対策
- 11 被災した公共施設への財政支援



岩沼市から

■ 不足物資について

東北地方太平洋沖地震において、全国各地から人的援助、救援物資など多くのご支援をいただき、感謝申し上げます。

毛布、水、食料など緊急のご支援をいただき、おかげさまで避難所の方々も寒さなどをしのぐことができました。

当初6,500人ほどの避難者がおりましたが、いまだ家屋の倒壊などの被害により自宅に戻れない1,500人近くの方々が避難生活を続けております。

それに伴い、ご支援いただきたい物資の種類が日常生活用品へと変化が生じております。これまで同様、ご支援ご協力をお願いいたします。

また、個人の方からの小口の支援は、仕分け作業が難しいため、当分の間遠慮させていただいております。企業の皆様などの大口のご支援をお願いいたします。なお、未使用のもので種類毎をお願いいたします。

• ご支援いただきたい物資

- 掃除用具(ほうき・ちりとり)
- 長靴、作業用ゴム手袋
- 食料(調理不要、保存可能のもの)
- おむつ(大人用、子供用)
- カセットコンロ、ボンベ
- 歯ブラシ
- 食器用洗剤、洗濯用液体洗剤
- お椀(発泡スチロール)、紙コップ、紙皿、割りばし
- 未使用の衣類(下着・肌着・靴下)
- タオル(手ぬぐい)
- 床ずれ防止マット
- 医療用防水シート
- リップクリーム

• 受け入れを中止している物資

- 毛布
- 水
- ブルーシート
- 米
- マスク
- 古着

お問い合わせ先:岩沼市災害対策本部

電話0223-22-1111

FAX0223-24-0897

※上記の記載内容は、岩沼市のホームページでもお知らせしております。

<http://www.city.iwanuma.miyagi.jp/saigai.html#husoku>

1. 本日（3月24日）の状況

宮古市では、大津波により多くの尊い命が犠牲になりました。現在確認された死者の数は324人となり、今後更に増加することが予想されます。

また、大津波により建物の流失・倒壊、道路や電気・水道・通信などのライフラインが切断されたため、市内63箇所に設置された避難所には5,276人が避難しています。

市民生活では、食料や灯油・ガソリンなどの燃料の調達が非常に困難な状況となっています。

現在、自衛隊や国・県など関係機関の協力を得ながら行方不明者の捜索、ライフラインの復旧を進めています。

2. 今ほしいもの

県内外の自治体、企業、個人から多くの支援をいただき感謝申し上げます。現在、避難所では次の用品が不足しています。

- ・衣類（下着）
- ・トイレットペーパー
- ・缶詰
- ・石けん、洗剤
- ・大人用オムツ、尿取りパット

大槌町副町長の声

災害発生から半月がたち、各分野で進展がみられるようになりました。

役場も災害対応だけでなく一般業務についても対応する必要があり、そのため仮庁舎の設置について検討を進めています。

また、庁舎だけでなく、机やイス、パソコンなどの備品も全て流されてしまいましたので、それら備品類も必要になってまいります。

仮庁舎の建物や備品類について、是非とも迅速なご協力をお願いします。

みなさんこんにちは、相馬市長の立谷秀清です。
今回は、私の書き下ろしエッセー「ろう城」をお届けします。

●ろう城

まず今回の地震津波で亡くなられた多くの方々のご冥福を祈りたい。
相馬市の場合、地震の揺れが終わった直後に災害対策本部を召集し、津波からの避難呼びかけと誘導を指示した。海岸部の5027人の家屋が流出して瓦礫となったが、亡くなった方は約一割。多くの方を避難させた消防団の方々に、心から感謝と敬意とお詫びを申し上げなければならない。避難指示、あるいは誘導の業務により逃げ遅れ、殉職された団員が7人。この方々の尊い命と引き換えに守られた、多くの市民の生活と郷土の再建に死力を尽くすことが、私のせめてもの償いと思っている。

さて震災直後は情報収集と生存者の救出に全力をかけた。地震の倒壊による死者はわずかにひとり。その50分後に信じられない報告が対策本部に入ってくる。津波が6号バイパスを越えようとしているというのだ。私には想像もつかないことだったが、現実には原釜、磯部の集落が壊滅、尾浜、松川も高台以外は波にのみ込まれ、原形をとどめる家屋は無くなっていた。体中に心配と不安が走るなか、災害対策本部の次の仕事は生存者の保護と救出者の健康管理である。夕方の、沿岸部のすべてを飲みつくした海水の中で、孤立している被災者をひとりでも多く避難所に退避させ、暖を与え水と食事を摂ってもらうことに専念した一夜だった。

時間がたつにつれて、行方不明になっている親族や知人の報告が入ってきたが、対策本部の中では誰ひとり感情を表に出す者はいなかった。この非常事態に、市をあげて取り組まなくてはならないことを全員が分かっていた。被災の10時間後、4回目の対策会議で我われは、復興にむかって一歩ずつ進んでゆくことを誓い合いながら、今後の行動指針を短期的対応、中長期的対応に分けて策定した。明日になれば、災害の全容がわかるだろう、犠牲者の情報ももっと詳しくわかるだろう、しかしどのような事態であっても臆することなく、着実に計画を実行していくことを肝に銘じた。

二日目以降の避難所は、被災者とライフライン不通による一般避難民とで過密状態となったが、女性消防隊や自衛隊の応援による炊き出しや、早くも届いた支援物資で何とか最小限のことは出来たと思う。
家を無くされた方々の避難所生活から、アパートや仮設住宅での自立した生活

に移行してもらうこと、災害現地をできるだけ整理すること、またそれまでの長期にわたる不自由な生活のなかでの健康管理や精神的なケアなど、中長期の計画に添ってチーム一丸となって歩み始めた。

ところが。

45 キロ離れた遠くの双葉郡から、二度目の悪魔が襲ってくる。放射能の恐怖という不安心理である。広がる一方の原発事故は一日中の過敏報道とともに、周辺地域はもとより日本中を恐怖心に駆り立ててゆく。半径 20 キロの範囲が避難指示地域になったころから、相馬市にも遠くに逃げ出そうという気分が広がっていった。

同時に国内の物流業者が敏感に反応し、相馬地方やいわき市に入ることを避けるようになった。ガソリンのタンクローリーなどは郡山で止まってしまい、運転手をこちらから向けないと燃料も手に入らない。震災後わずかに開いていたコンビニやスーパーも商品が入って来ないため閉店である。ガソリンと物資が入らない日常生活の不便に加え、原発の放射能拡散の恐怖が相馬地方を襲ったのだ。

市民は終日テレビにかじりつき、解説者は得意げに危険性を説明する。たしかチェルノブイリでも 30 キロのはずだったが、45 キロ離れて避難命令も出ていないはずの相馬市民の顔色がみるみる不安にあふれていく。

もしも放射能の数値が上がったら、その時避難したのでは遅いのではないかと？ 国は、本当は健康被害が出るくらいの危機的状態なのに、国民を騒がせないために隠しているのではないかと？ ひょっとしたら今こそが逃げるべきタイミングなのではないかと？ 現に米国は 80 キロまで避難させたではないかと？

事実、屋内退避とされている南相馬市では大量脱出が始まった。ガソリンも食糧も医薬品も届かない陸の孤島にいたのでは、ヒロシマのように爆発してからでは遅いのだという恐怖が、まず南相馬市民を相馬市に向かわせた。相馬市の避難所に押し掛けてきたので、こちらでは新たに廃校となっていた相馬女子高を南相馬市民のための避難所とした。容量は 1000 人分。もちろん食糧の提供もこちらの義務となるが、我われより困っているのだと思ってひき受けることにした。災害対策本部には、一瞬顔をこわばらせるものがいたが異論は出なかった。

しかし、南相馬市民の不安や脱出願望を肌で感じた相馬市民にも危機感と焦りが生じてきた。早く逃げないと、放射能による障害をまともに受けるのではないかと不安が蔓延するようになってきたのだ。対策本部としては、国から避難命令が出る前に、自分たちで自主避難を決めることはあり得ない。この当たり前の立場を対策会議で確認して、三か所の避難所で演説してまわった。

我われはその後の対策会議で、復興に向けて着実に進む方針を、短期対応、中期対応、長期計画と分けて市内の実情に合わせて着実に進んでいくことを決め

てきた。その過程で、もしも国から一時避難を指示されるなら、市民の健康や生命を案じて計画的な集団避難を実行しなければならないが、漠然とした不安にかられて復興計画を遅らせるとしたら、亡くなった人たちに済まない。だいいち、高齢者などの災害弱者にとって、相馬を離れた避難所生活が辛くないはずがない。だから、国から避難指示のない現段階で、市民とともにこの相馬市を離れるつもりは毛頭ない。

ところが、原発の放射能もれに対する国中の不安が、相馬への物流を決定的に止めてしまった。影響が特に厳しかったのが医薬品である。この点は供給会社のトップと話して、相馬がどうしても撤退できない理由を理解してもらった。彼らの理解を得て医薬品の供給は確保されたので、相馬の医療機関は留まることができる。しかし、問題はスーパーやコンビニで、生活用品や食料を調達できないことである。

市民にはご不自由をかけているが、ここで生活の不便さや原発の恐怖心に負けてしまったら、相馬地方は将来ともに復興が出来ないに違いない。昨日、行政組織の区長さんたちを集めて、相馬市はろう城生活に入ることの了解を得た。いつまでも続くはずもない原発騒ぎや物流の風評被害に負けたら、津波から被災集落住民の命を守って殉職した分団長や団員に申し訳がない。

最低、米と味噌と梅干しがあれば、生きてはいける。天明の飢饉はもっとひどかったはずだ。よってろう城をしながらここで頑張る。さいわい全国の市長たちが支援してくれるから、兵糧の心配はない。

■発行：福島県相馬市 企画政策部秘書課
TEL 0244-37-2115

●このメルマガに関するお問い合わせやご意見メールは、
info@city.soma.fukushima.jp

●マガジンの登録・解除は、
パソコンでご覧の方は <http://www.city.soma.fukushima.jp/>
携帯電話でご覧の方は <http://mobile.mag2.com/mm/M0094208.html>

●メールアドレスの変更は、配信解除してから新規登録してください。

このメールマガジンは、インターネットの本屋さん『まぐまぐ』を利用して発行しています。

<http://www.mag2.com/>

山田町の臨時掲示板

必要物資名	単位	数量	規格	備考
ガソリン携行缶	20ℓ	30		

◆釜石市からのメッセージ

必要としているもの

釜石市では、現在、次の物品が不足していますので、ご提供いただければ幸いです。

灯油、カセットボンベ、米、缶詰、塩、砂糖、醤油、トイレットペーパー、子供用紙おむつ、大人用紙おむつ、生理用品、乾電池、ストーブ(反射式)、炭、長靴、靴下、下着、手指消毒液、タオル、ウエットティッシュ、ローソク、ラップ、そのほか日用品

宮古市長から

1. 本日（3月25日）の状況

宮古市では、大津波により多くの尊い命が犠牲になりました。現在確認された死者の数は324人となり、今後更に増加することが予想されます。

また、大津波により建物の流失・倒壊、道路や電気・水道・通信などのライフラインが切断されたため、市内62箇所に設置された避難所には5,256人が避難しています。

市民生活では、食料や灯油・ガソリンなどの燃料の調達が非常に困難な状況となっています。

現在、自衛隊や国・県など関係機関の協力を得ながら行方不明者の搜索、ライフラインの復旧を進めています。

2. 今ほしいもの

県内外の自治体、企業、個人から多くの支援をいただき感謝申し上げます。現在、避難所では次の用品が不足しています。

- ・衣類（下着）、靴下
- ・トイレットペーパー
- ・缶詰
- ・カップラーメン、インスタントスープ・味噌汁
- ・野菜
- ・石けん、洗剤
- ・大人用オムツ、尿取りパット
- ・使い捨てカイロ
- ・軍手、ゴム手袋
- ・生理用品、ハンドクリーム
- ・発泡の器

石巻市長から国交省へのメッセージ

発災から約2週間が経過し、ガレキにより閉ざされた道路の開通作業も進み、市内の幹線ルートはおおむね通れる状況となり、そして開通作業と歩調を合わせるように、被災した家屋や事業所などから津波で堆積した泥やガレキの除去、使えなくなった畳や家財などの撤去作業も次第に進み、一歩一歩ではありますが復興に向けて動きつつあります。

また避難所でも道路の開通やライフラインの復旧とともに、避難される方も徐々に減りつつありますが、津波被害により帰るところが無くなった方やライフラインの復旧が遅れている地区の方など依然多くの方が避難されております。

避難所では、市として最大限の努力を続けてはおりますが、行き届かず、国や自衛隊、県、NPO、市民ボランティア、そして近所の方々などのご支援ご協力が必要なところであります。

国土交通省からは、津波の浸水で対策本部をおく市庁舎が冠水により孤立していた時から、いち早く市の災対本部へリエゾンとして地方整備局の職員を派遣いただき、何かとご支援ご協力をいただいておりますが、今週は道路のガレキ除去のご支援や不足していたガソリンや軽油など油類の提供をいただきました。誠にありがとうございました。

東北・関東にも及ぶこの広域災害は、1市の努力では難しい問題課題が多く、その中で地方整備局の職員が市の災対本部に詰めて、現場の声を聴き、そして悩みを聴いて、国として積極的に対応いただけることは、たいへんすばらしい取組みであり、国土交通省の持つ中央と地方の結びつきの強さの賜物ではないかと感じております。

時間の経過とともに徐々に今回の地震・津波の恐ろしさと被害の爪痕の大きさがわかってまいりました。国土交通省のヘリから撮影した北上川河口部の写真には、松並木の美しい海岸線があった長面海岸が、津波のため消失しているのがわかります。

長年、先人の努力で整備した海岸や田畑、そして人々の暮らしが一瞬のうちに消滅してしまいました。長面海岸の背後に暮らす長面地区や釜谷、間垣地区などの多くの方が、今まで経験したことのない大津波により被災し、未だ行方不明者の数は極めて多く、現在、警察や自衛隊、消防団などの方々により捜索を進めていますが、一面、湖と化した現地では捜索は困難を極めています。

捜索を推進するためには、湛水した水を早く排水しなければなりません。是非、国・県そして関係する機関の皆様のご協力をいただきたく宜しくお願いいたします。



一面の湖となった北上川河口の長面地区（国土交通省ヘリ撮影）

平成23年3月26日

『菅原 気仙沼市長からのメッセージ』

「東北地方太平洋沖地震」は、東北地方に未曾有の大被害を及ぼしました。この大地震に伴い、「石巻市の牡鹿半島では、東南東方向に約5.3m移動し、約1.2m沈下した」との報道がありました。多くの尊い人命を奪い、漁港・港湾、道路、工場等事業所などの産業基盤が壊滅的な被害を受けた気仙沼市においても、大きな地盤変動があったものと思われます。

気仙沼市では、地震・津波・火事による災害からの復旧と復興に向け、今まさに市民と行政が一体となって全力で取り組んでいるところです。そのため、これからの安全で安心なまちづくりを考える上では、地震により生じた大規模かつ広範囲な地盤沈下などの情報が必要と考えているところです。

については、GPSによる正確な標高等の観測を早期に実施され、提供いただくことを切に期待しております。

宮古市長から

1. 本日（3月26日）の状況

宮古市では、大津波により多くの尊い命が犠牲になりました。現在確認された死者の数は332人となり、今後更に増加することが予想されます。

また、大津波により建物の流失・倒壊、道路や電気・水道・通信などのライフラインが切断されたため、市内61箇所に設置された避難所には4,914人が避難しています。

市民生活では、食料や灯油・ガソリンなどの燃料の調達が非常に困難な状況となっています。

現在、自衛隊や国・県など関係機関の協力を得ながら行方不明者の捜索、ライフラインの復旧を進めています。

2. 今ほしいもの

県内外の自治体、企業、個人から多くの支援をいただき感謝申し上げます。現在、避難所では次の用品が不足しています。

- ・衣類（下着）、靴下
- ・トイレットペーパー
- ・缶詰
- ・カップラーメン、インスタントスープ・味噌汁
- ・野菜
- ・石けん、洗剤
- ・大人用オムツ、尿取りパット
- ・使い捨てカイロ
- ・軍手、ゴム手袋
- ・生理用品、ハンドクリーム
- ・発泡の器

女川町からのメッセージ

「女川町では、3月25日現在2,584人が避難しています。

避難所では、炊き出しの材料はありますが、それをよそうトレーが足りません。食事する際の紙皿、紙コップ、プラスチックのどんぶり、割り箸も不足しています。

また、被災地では倒壊家屋等の木材が散乱しており、その撤去が終わらないと本格的な復旧が出来ない状況にあります。そのため、自衛隊で緊急復旧作業や建設会社数社が機械を持ち込み、復旧作業、捜索作業等にご協力をいただいています。さらなるご支援をお願いします。」

・女性の避難者の方から洗濯をしたいという要望があり、二槽式の洗濯機10台、物干し台と物干し竿(体育館で使用)を50セット欲しいとのこと。

いわき市長からのお願い

1. 近況

・発災してから二週間が経ちました。浜通りは、過去に類を見ない巨大地震、大津波被害に加えて発事故の三大災害に見舞われております。また、原発事故に端を発し、風評被害も深刻な問題となっております。

屋外退避の30km圏内が、市内のごく一部でありながら、市内全域を退避エリアと誤解し、物流が滞っている状況となっております。

・市内の沿岸部では、大津波により避難生活を強いられており、また、市民生活においては、物流常化が急務となっております。いわき市のほとんどは30kmエリア外(屋内退避はいわき市北部で全面積比率0.6%)であり、原発の影響はほとんど無いことを理解していただきまして、物流を正常化いただきますよう、切にお願い申し上げます。

・常磐自動車道(いわき中央ICまで)、磐越自動車道、国道6号、国道49号のいわきまでの主要道安全に通行できます。今までと変わらない物流経路を維持しています。どうかいわき市民34万人常生活をお守り下さい。よろしくお願い申し上げます。

2. 今必要なもの

・いわき市は広大な面積の中で34万人の人たちが暮らしています。そのために移動手段として、欠かせないものとなっております。日常生活を行う上でガソリンの確保は急務です。灯油も不足しています。

・食料品においても、パックごはんや缶詰など長期保存食の支援をお願い致します。

・「市民生活の再建に向けた皆様の正しい理解とご支援」をよろしくお願い致します。

平成23年3月27日現在

ご支援してくださる皆さまへ

～宮城県気仙沼市から救援物資についてのお願い～

全国各地から、また海外の方々から、温かい心のこもったご支援をいただき、大変感謝申し上げます。

気仙沼市内には、3月26日現在で市内98箇所の避難所に約13,300人の避難者がおり、被災者の生活用品や食料などが不足していますが、お陰様で毛布は十分な数を確保できました。

そのため、現時点では、毛布の受け入れをご遠慮させていただいております。

現在、特に不足している物資は、次のとおりです。

皆さまのご支援をお願い申し上げます。(詳しくは、気仙沼市災害対策本部へお問い合わせ下さい)

〔食料〕	
	飲料水
	果物 (ミカン・リンゴ・バナナなど)
	缶詰 (おかず、フルーツなど)
	レトルト食品 (おかゆ、カレー、おかず類など)
〔生活用品〕	
	乾電池 (単1・単2)
	ラップ
	ガスボンベ (カセットコンロ用)
	トイレトペーパー
	紙おむつ (大人用)
	消毒用アルコール
	ウェットティッシュ (ノンアルコールタイプ)
	ゴム手袋
	使い捨て食器 (どんぶり・箸など)
	シャンプー (水不要のもの)
	尿取りパット
	お尻ふき
	介護用手袋 (使い捨てタイプ)
	介護用エプロン (使い捨てタイプ)
	肌着 (新品に限らせていただきます)
〔子ども用品〕	
	粉ミルク (アレルギー対応のものも含む)
	ベビー飲料

お問い合わせ：気仙沼市災害対策本部 (TEL 0226-24-1369 または 0226-24-1379)

平成23年3月27日

『菅原 気仙沼市長からのメッセージ』



このたびの「東北地方太平洋沖地震」では、昨年12月19日に開通した唐桑道路が地域住民の避難ルートとして大きな役割を果たしたことから、災害時における緊急避難路の確保の観点からも三陸縦貫自動車道の必要性は極めて高いと、あらためて認識したところです。

さらに、これから復興計画を進める気仙沼市においては、まちづくりと地域の骨格をなす三陸縦貫自動車道の整備を一体的に考える必要があります。

つきましては、気仙沼市をはじめとした三陸沿岸地域の復興のため、現在、事業を進められている本吉気仙沼道路等の一日も早い開通を心より念願するとともに、南三陸町・気仙沼市・陸前高田市域における基本計画区間について、速やかに整備計画を決定いただきたく、要望申し上げます。

気仙沼市長

菅原 茂

南三陸町長からお願い

1. 本日（3月27日）の状況

南三陸町では今年の3月は例年になく寒さが続いています。今日で3月に入って8回目の雪の日となりました。例年、南三陸町は春の淡雪が1日くらい降って暖かい春に向かって行くのですが、今年の春は異常気象です。避難所にいる皆さんは、この寒さにも負けず元気に避難生活を送っております。これも全国の皆様の心からの応援の賜物だと思っています。

災害から半月余り経ちました。連日、沢山の自衛隊の皆さん、消防隊の皆さん、警察の皆さん、国土交通省の皆さんが復興に向けた活動を展開してもらっております。

今日、国土交通省東北地方整備局の徳山局長さんが当町に災害視察において頂きました。町内の被災地を一緒に見て回りまして、あまりの惨状にただただ驚いておられました。「復興のために精一杯のご支援をする」という言葉を頂いて、大変心強く感じているところです。電気・水道がまだ通じておりませんが、昨日から仮庁舎で役場の業務の一部が始まりました。窓口サービスは28日（月）からスタートします。さらに、新しい電柱の建柱が始まりました。その電柱を見て、復興への足取りを一步踏み出した思いがする今日の南三陸町です。

2. 今ほしいもの

今日現在では下記のものが不足しています。

〔食料品〕

- ・ 味噌、しょうゆ、塩、コショウ、サラダオイル、マヨネーズ等の調味料
- ・ 飲料水

宮古市長から

1. 本日（3月27日）の状況

宮古市では、大津波により多くの尊い命が犠牲になりました。現在確認された死者の数は332人となり、今後更に増加することが予想されます。

また、大津波により建物の流失・倒壊、道路や電気・水道・通信などのライフラインが切断されたため、市内59箇所に設置された避難所には4,558人が避難しています。

市民生活では、食料や灯油・ガソリンなどの燃料の調達が非常に困難な状況となっています。

現在、自衛隊や国・県など関係機関の協力を得ながら行方不明者の捜索、ライフラインの復旧を進めています。

2. 今ほしいもの

県内外の自治体、企業、個人から多くの支援をいただき感謝申し上げます。現在、避難所では次の用品が不足しています。

- ・衣類（下着）、靴下
- ・トイレットペーパー
- ・缶詰
- ・カップラーメン、インスタントスープ・味噌汁
- ・野菜
- ・石けん、洗剤
- ・大人用オムツ、尿取りパット
- ・使い捨てカイロ
- ・軍手、ゴム手袋
- ・生理用品、ハンドクリーム
- ・発泡の器

3月27日(日) 大槌町 副町長(町長代行)のコメント

現在の大槌町の状況についてお知らせします。

昨日、菅総理大臣から激励のお電話をいただきました。

私からは、ライフラインの復旧、ガソリンの流通、仮設住宅の設置、この3点について至急に手配していただくよう直接にお願いをいたしました。

仮庁舎については国土交通省の協力を得て、大槌小学校グラウンドに設置することを考えておりますが、ここも津波の被害を受けたため、自衛隊のご協力でガレキや流されてきた自動車の撤去作業を進めております。あまり時間はありませんが、4月1日からは新体制でスタートしたいと考えております。

このほか、町内の運動公園に大型テント(1,000㎡)2基の設置作業を進めており、4月1日からはここを全国からいただいた救援物資等の集約拠点とし、住民への効率的な物資の輸送・配布に努めていきたいと考えています。

宮古市長から

1. 本日（3月28日）の状況

宮古市では、大津波により多くの尊い命が犠牲になりました。現在確認された死者の数は346人となり、今後更に増加することが予想されます。

また、大津波により建物の流失・倒壊、道路や電気・水道・通信などのライフラインが切断されたため、市内59箇所に設置された避難所には4,542人が避難しています。

市民生活では、食料や灯油・ガソリンなどの燃料の調達が非常に困難な状況となっています。

現在、自衛隊や国・県など関係機関の協力を得ながら行方不明者の搜索、ライフラインの復旧を進めています。

2. 今ほしいもの

県内外の自治体、企業、個人から多くの支援をいただき感謝申し上げます。現在、避難所では次の用品が不足しています。

- ・衣類（下着）、靴下
- ・トイレットペーパー
- ・缶詰
- ・カップラーメン、インスタントスープ・味噌汁
- ・野菜
- ・石けん、洗剤
- ・大人用オムツ、尿取りパット
- ・使い捨てカイロ
- ・軍手、ゴム手袋
- ・生理用品、ハンドクリーム
- ・発泡の器

女川町から

※必要な文房具(災対本部運営用)

ペン類【鉛筆、シャープペン、マジック】

上質紙(コピー紙)

上質紙(厚)

ノート

シャープペンの替芯

鉛筆削り

消しゴム

デジカメ

デジカメ用メモリ

バインダー

ファイル

朱肉

トナー (リコーイマジオ 商品番号63-6437)

インクジェット エプソンPM-3300C用 黒・カラー

ホワイトボード

ホワイトボード用ペン

ホワイトボード用消板

乾電池(単一から単四型)

セロテープ(台もあれば)

ガムテープ

ホチキス

カーボン紙

ゴム印マット

模造紙

ティッシュペーパー

マスク

軍手

ゴム手袋

合羽

長靴

作業服

東北地方太平洋沖地震に係る物資の要望について

連絡先：野田村災害対策本部

電話：0194-78-2111 F A X：0194-78-3995

◎被災家屋の泥処理用

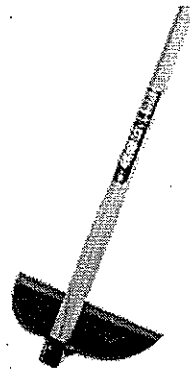
- ・一輪車 500 台
- ・角スコップ（幅 25cm 程度） 1,000 丁
- ・剣スコップ 1,000 丁
- ・ジョレン 1,000 本
- ・レーキ 1,000 本
- ・高圧洗浄機 50 台



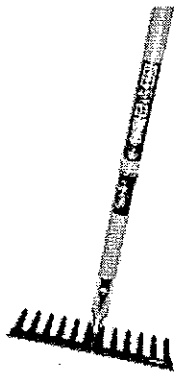
剣スコップ



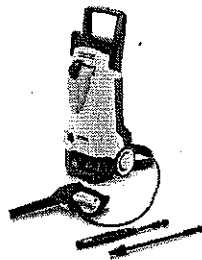
角スコップ



ジョレン



レーキ



高圧洗浄機

◎被災者の生活用

- ・カセットコンロ 500 個
- ・カセットボンベ（1セット3本） 500 セット
- ・衣類乾燥機 15 台
- ・こたつ 50 台

報道機関
各位

平成 23 年 3 月 28 日

支援物資の受け入れについて

平成 23 年 3 月 11 日に発生した平成 23 年東北地方太平洋沖地震に関し、水、食料及び生活関連物資等の支援物資の御提供をいただき誠にありがとうございます。

飲料水、毛布は、十分な数を確保できておりますので、現時点では受け入れを中止させていただきます。なお、以下の物資については、引き続き御支援をお願い申し上げます。

また、団体（法人、地域団体等）からの物資の提供につきましては、あらかじめ、情報を伺ってから受け付けておりますので、御理解をいただきたいと存じます。

なお、個人の方からの物資の提供につきましては、混乱を避けるため、お断りさせていただいております。お住まいの自治体や社会福祉協議会などでも支援物資の支援を行っている場合もございますので、そちらを通じて、御協力をお願い申し上げます。

1 お願いする支援物資

- ・ 缶詰（おかず等）
- ・ レトルト食品（お粥、カレー、おかず類等）

○ 連絡先 いわき市災害対策本部 救援物資担当 (0246-22-0600)

3月28日(月) 大槌町 副町長(町長代行)のコメント

朝晩は厳しい寒さが続いています。日中は春らしい日射しを感じることも出来ました。

町では災害対策本部から住民への情報提供のため広報誌として「おおつち」を先週末から発行しています。被災状況だけでなく電気、水道、道路などライフラインの復旧状況や、仮設住宅の入所希望調査、物資の配給、病院への無料バスの運行などの情報を掲載しています。復旧にはまだまだ時間がかかりますが、引き続き皆様のご支援をお願いいたします。

今ほしいもの

4月からは仮庁舎で役場の通常業務を始めたいと考えていますが、今までの庁舎は津波で破壊され中にあった一切の備品・物品類は流されてしまいました。

今、一番必要なものは役場機能の復旧であり、そのためには、机を始め、椅子、書庫、電話機等様々なものが必要となっています。

役場で必要としているものを一覧表にいたしました。この中で皆様からご協力いただけるものがあれば、一つでも結構ですので、大槌町災害対策本部までご連絡ください。

大槌町仮庁舎に係る設備、備品関係一覧

- | | | |
|------------------------|--|--------------------|
| 1. 机 | ① 両袖机(課長、主幹、班長用) | 35個 |
| | ② 片袖机(課員用) | 100個 |
| | ③ 両袖机(町長、副町長用) | 2個 |
| 2. 会議室用机 | 折り畳み式(3人掛け) | 25個 |
| 3. 椅子 | ① 肘掛付き椅子(課長、主幹、班長用) | 35脚 |
| | ② 肘掛無し椅子(課員用) | 100脚 |
| | ③ 肘掛付き椅子(町長、副町長用) | 2脚 |
| 4. 待合室用椅子 | 長椅子タイプ(5人掛け) | 5個 |
| 5. 会議室用椅子 | 折り畳み式 | 80個 |
| 6. 町長・副町長室来客用応接セット | テーブル(6人用) 椅子 8脚を1セット | |
| 7. 書庫 | クロガネ(AKFファイリングシステム用 3段) | 25個×8課=200個 |
| 8. 電話機及び交換機 | 交換機 1台、電話機 | 45台 |
| 9. カラーコピー機 | ネットワーク対応型複合機(60枚/分) 8基(FAX兼用) | |
| 10. ストープ | 石油ストーブ(8~10畳用) | 16個(ブルーヒーター) |
| 11. ロッカー | | 140人分(1台何人用かは問わない) |
| 12. ホワイトボード | | 7個 |
| 13. 衝立 | | 10個 |
| 14. 瞬間湯沸かし器 | | 2個 |
| 15. ガスコンロ(1口) | | 2個 |
| 16. 簡易的な流し台 | | 2個 |
| 17. 冷蔵庫(2ドア) | | 5台 |
| 18. 電気ポット | | 8台 |
| 19. 電子レンジ | | 7台 |
| 20. 32インチテレビ(衛星放送視聴可能) | | 15台 |
| 21. 簡易ベッド(折り畳み式) | | 10個 |
| 22. パソコン | ノート型(内部系 120台+住基系 40台=160台) | |
| | ① OS Windows7 | |
| | ② 画面サイズ 15~17インチ | |
| | ③ ソフト MS office (Word、Excel) | |
| | ④ リース契約について
(物件の滅失) | |
| | 第〇条 天災地変等、甲乙双方の責めに帰し難い理由により物件の全部又は一部が滅失・棄損した場合、乙はその物件にかかる賃借料のうち、その滅失・棄損した日の翌月以降の賃貸借料を甲に請求できないものとする。→ 契約の滅失 | |
| 23. エアコン | エアコン(8~10畳用) | 20基 |

大槌消防署仮庁舎備品一覧

番号	建物階層	部屋名	品名	個数	寸法	備考
1	1階	事務室	事務机	合計20個		両袖2、片袖18
2			事務椅子	合計20個		肘付2、肘なし18
3			書庫	5個	巾120×奥行40×高さ180	引き戸式2段スチール製ガラス戸上段 スチール戸下段
4			長机	5脚	巾180×奥行45×高さ70	
5			折りたたみ椅子	15脚		肘なしパイプ
6			ホワイトボード	1台		脚付両面ホワイトボード (片面は月行事予定)
7			エアコン	2台	20畳用	
8			石油ストーブ	2台		ブルーヒーター
9			洗濯機	1台		
10			テレビ	1台	42型	
11			電話	合計7機		情報収集用 事務室5機 通信室2機
12			複合機	1台		プリンタ兼コピー機
13			衝立	3枚	巾180×高さ180	間仕切り用
14			通信室	事務机	2脚	
15		事務椅子		2脚		肘なし2
16		FAX機		1機		
17		テレビ		1台	26型	
18		浴室	風呂	1個		
19			シャワー	1個		
20			ボイラー	1個		
21		台所	ガスレンジ	1個	2口魚焼付	LP
22			流し台	1個	巾180×奥行60×高さ80 シンク70×50	
23			ガス台	1個	巾60×奥行60×高さ65	
24			電子レンジ	1個	出力1000W	
25			食器棚	1個	巾120×奥行45×高さ180	
26			冷蔵庫	1個	300リットル	
27			電動ポット	2個		
28			ガス給湯器	1台		LPガス用
29	2階	仮眠室・待機室	ベッド	20人分		
30			寝具一式	20人分	敷布団、掛け布団、毛布、枕	
31			エアコン	2個	20畳用	
32			ロッカー	35人分	巾45×奥行50×高さ180	
33			テレビ	1台	42型	

福島県いわき市における店舗等の状況
(3月28日)

- 大手スーパーは、市内数十店舗のうち約過半数が開業（営業時間短縮）
- コンビニは、閉店している店舗もあるが、順次開店店舗が増加中。
- ホームセンター・大手ドラッグストア・大型衣料品店は、市内店舗のうち約半数が開業。
- ガソリンスタンドは、約130店舗のうち、30～40店舗開業。
- 医療機関は、市内病院は通常どおり。その他の病院も多数で通常どおりの診療。
- 水道は市内の約63%で復旧（依然4万8千戸で断水）
- 電気・ガスは、津波による被災箇所等以外はほぼ復旧。